

第 68 期（平成 29 年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、平成 29 年 12 月 31 日現在、名誉会員 5、個人正会員 1,661、団体正会員 357（399 口）、学生会員 197 の計 2,220 であった。理事会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員 92、団体正会員 8（9 口）、学生会員 105 の新入会・復会を得たものの、個人正会員 148、団体正会員 14（16 口）、学生会員 110 の退会があり、個人正会員 6 のご逝去とあわせて前年同期に比べ計 73 が減少した。

2. 会 計

当初予算は、平成 29 年 1 月末の会員数及び景気の動向などを考慮し、前年度予算より 139 万 2 千円収益減、13 万 9 千円費用減とし、当期経常増減額を 1,280 万 4 千円とした。

これに対して、受取会費は予算より 44 万 4 千円減であった。一方、前年に引き続き、各事業の活性化を進めたが、事業収益は予算より 83 万 7 千円減となった。事業収益のうち、学術セミナー収益は予算を上回り、展示会収益は予算並みであったものの、学術講演会収益及び会誌発行収益などは予算を下回った。また、支部事業は、事業の活性化により、収益は前年度決算額より増加した。部会事業では、費用節減に努めたものの部会会員数の減少により、会費収益及び費用は前年度決算額より減少した。

しかし、各事業で費用の節約を図った結果、予算より 372 万 6 千円費用減となり、当期経常増減額は、予算より 340 万 4 千円増となった。

以上より、正味財産は 7,998 万 4 千円となり、前年度より 1,620 万 8 千円増加した。なお、昨年に引き続き将来計画事業積立資産に 500 万円を積み増した。

3. 講演大会等

講演大会は、第 135 回講演大会（東洋大学 川越キャンパス、3 月 9 日～10 日）及び第 136 回講演大会（金沢工業大学 扇が丘キャンパス、9 月 14 日～15 日）の 2 回開催した。両大会の合計発表件数 309 件、参加登録者 881 名であった。シンポジウム及び武井記念講演会は聴講者も多く、大会の活性化に寄与した。

第 135 回講演大会において「第 23 回学術奨励講演賞」を 10 名に授与した。第 136 回講演大会において、「第 19 回優秀講演賞」3 名、「第 6 回学生優秀講演賞」5 名を選考し、第 137 回講演大会（芝浦工業大学）において授与する予定である。

第 74 回表面技術アカデミック研究会討論会として「表面技術の将来を考える－自動車技術を中心に－」（首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス、12 月 18 日）を開催した。

4. 会 誌

12 テーマの小特集及び特集を企画し、年間 12 号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計 740 ページ、掲載論文は、研究論文 28 件・技術論文 4 件・ノート 1 件・速報論文 7 件であった。

また、J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム ; (国研)科学技術振興機構] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第 67 巻(平成 28 年)12 号まで掲載した。

5. セミナー

夏季セミナー“表面処理基礎講座（Ⅰ）”（東京理科大学 森戸記念館、6月28日）のほか、“めっきプロセスの基礎と評価実習”（東京理科大学 野田キャンパス、7月18日～19日）、“ドライプロセスの基礎と薄膜作製”（千葉工業大学 津田沼キャンパス、8月22日）、“めっき液の分析と管理”（神奈川大学 横浜キャンパス、8月31日）、“めっき現場における要素技術”（国立オリンピック記念青少年総合センター、10月25日～26日）、“表面処理基礎講座（Ⅱ）”（日本パーカライジング(株)本社、11月29日）を開催した。参加者の合計は307名であった。

6. SURTECH

“SURTECH 2017ー表面技術要素展”は、主催：本会、日本鍍金材料協同組合、JTB コミュニケーションデザイン、後援：全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会により、“nano tech 2017（国際ナノテクノロジー総合展・技術会議）”など14の展示会と同時開催した（東京ビッグサイト、2月15日～17日）。出展社（機関）は、97社143小間で、特別企画展示「進化する表面処理」では、我が国のめっき加工業を牽引するめっき専業社の出展や「ウェット及びドライプロセスの実演コーナー」との相乗効果により、多くの来場者を集めた。全体の来場者は53,106名であった。また、“SURTECH 2018”の開催に向けて準備を開始した（東京ビッグサイト、平成30年2月14日～16日）。

7. 国際交流

INTERFINISH 2020（名古屋）開催にあたり、これまで INTERFINISH 開催国から選出することになっていた IUSF（International Union for Surface Finishing）会長（任期：開催前後計4年）について、現 IUSF 会長に、日本は INTERFINISH 2020 の開催に専念し、会長は派遣できないむね申し入れた。その結果、IUSF 会長が関係国と調整をとり、日本に代わり INTERFINISH 2016 と 2024 開催国である中国と香港が任期を延長して務めることになった。

また、INTERFINISH 2020 地域組織委員会（Local Organizing Committee）委員長を決定し、第69期（平成30年）に Second Circular の作成を計画するなど、開催に向けて準備を開始した。

8. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）の TC 107 部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中に ISO 規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107 国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。また、ISO/TC 107 第29回総会を、主催：本会、日本表面処理機材工業会、日本珪瑯工業会、日本溶融亜鉛鍍金協会、日本溶射学会、日本溶射工業会、ニューダイヤモンドフォーラム、DLC 工業会により、1月16日～20日、柏の葉カンファレンスセンターにて開催し、参加者は6カ国（日本含む）、80名（海外から28名）であった。

9. 70 周年記念事業

常務会の下に創立70周年記念事業素案検討委員会を設置し、記念事業の概要を検討し、理事会に報告した。本委員会は発展的に解消し、第69期（平成30年）は常務会の下に「70周年記念事業委員会」を設置し、記念事業の詳細を検討することとした。

10. 表 彰

協会賞 1 名、功績賞 2 名、論文賞 1 件、技術賞 1 件、進歩賞 2 名、技術功労賞 4 名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会及び全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の 3 団体で組織する表面処理団体協議会は、平成 28 年度（第 27 回）表団協セミナー“自動車車体用材料と表面処理-自動車の軽量化に向けて”（東京ビッグサイト、平成 29 年 2 月 16 日）を開催した。また、平成 29 年度（第 28 回）表団協セミナー（東京ビッグサイト、平成 30 年 2 月 16 日）を SURTECH 2018 会期中に開催することとし、準備を進めた。

12. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性に対応した諸活動を活発に行った。特に、中部支部は第 136 回講演大会の成功に貢献した。

13. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① ウェットプロセス研究部会
- ② 環境および機能性に関する塗料部会
- ③ 金属のアノード酸化皮膜の機能化部会
- ④ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑤ 材料機能ドライプロセス部会
- ⑥ 将来めっき技術検討部会
- ⑦ ナノテク部会
- ⑧ めっき部会
- ⑨ 表協エレクトロニクス部会
- ⑩ 表協青年経営技術懇話会
- ⑪ 表面技術環境部会
- ⑫ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑬ 溶射・ライニング部会
- ⑭ 熔融金属表面プロセス部会
- ⑮ ライトメタル表面技術部会